

東 亞 天 文 協 會

豊 中 支 部 發 會 式

昭和8年1月18日山本博士をお迎へして、東亞天文協會豊中支部の發會式を舉行しました。この日會員河合孝一君の發會の挨拶は支部設置に到るまでの經過を述べてゐますので、此處にそれを引用します。

「大正14年11月21日山本一清博士が、當豊中學校に御出下され生徒一同に天文に関する御講演を下さいました。これが一つの大きな導火線となつて、井伊、川端兩先生が、生徒の有志を集めて觀測や研究會などを續けて參りましたが、この道に興味を持つて集まるものが次第に増加して來ましたので、昭和6年4月兩先生の御骨折によつて「星の會」といふ名稱で設立され會員も38名となりました。同年5月13日は當校創立十周年記念式が行はれて各種の催がありました。わが星の會では星座大模型—5月13日午後8時の大阪上空の星々を直径4間のドーム形の天井をつくつて豆電球で現はし星座毎にスイッチで點滅し得る裝置にしたもの—と太陽系總模型—冥王星の軌道を直径四間にして太陽を始め各遊星、衛星、ハレ1、エンケの二彗星の軌道をそれぞれの比に算出して現はしたものを出品して非常な好評を博してからは會はいよいよ活氣を呈して參りました。その後は頻繁に實地觀測や研究の集會が催されました。昭和7年に入つてよりは星の會員中より天文同好會に入會するものが頻出し同時に校内に於ける觀測、研究は、かなり深いものになつて來ました。會員中の福井君、笹部君、河合君などは、中學生級以上の仕事をするやうになりました。7月下旬には學校の休暇を利用して六甲山にキャンピングを行ひ、澄んだ空氣を透して心行くまで種々の觀測をしました。又8月上旬には本校々庭の一隅にキャンピングを行ひ、會員の有志は代る々々夜を徹して彼のペルセウス流星群の觀測を行ひました。但しこの觀測は雨に邪魔されて充分なことは出來ませんでした。9月上旬には彼のペルチャホイツプル彗星を觀測したことは、この彗星の寂しい折柄よろこばしいことでした。9月10日には、我等の憧れの花山天文臺を見學し、その夜の例會にも出席して、山本先生の月に關する講演を拜聴しました。この頃から本校内の天文同好會員中に支部設立の希望が湧起り、井伊先生より山本先生に御相談上げたところ12月上旬にお許しがあり、「發會式には出席するから」との有難いお言葉まで添へてありました、會員のよろこびは大きいものでした。

發會式當日のプログラムは次の通りでありました。

1. 午後一時より記念講演、山本一清博士、全校1100人の生徒に聴講させ重大の感銘を與へました。
2. 午後三時より支部會員記念撮影
3. 支部發會式

- | | | |
|------------------|---------|-------------|
| (イ) 發會の挨拶 | (河合孝一君) | (ロ) 山本博士のお話 |
| (ハ) 當學校長林眞英氏の祝辭 | | (ニ) 庶務報告 |
| (ホ) 協議 (支部會則につき) | | (ヘ) 役員選舉 |
| (ト) 茶 話 會 | | |

なほ此の日は、大阪支部幹事なる宮森先生、箕面學園長小谷先生など御多忙の中を御列席下され會のために種々有益な御言葉を下さいました事を感謝して居ります。

× × × ×

豐中支部會則

1. 此ノ會ヲ東亞天文協會豐中支部トイフ。(事務所ヲ豐中中學校内ニ置ク)
2. 此ノ會ハ東亞天文協會々員ニシテ大阪市外豐中町近傍ニ在住スル者ヲ以テ組織ス
3. 比ノ會ハ次ノ事業ヲ行フ(本部トノ連絡ヲ計リ)
 1. 研 究 會
 2. 見學及ビ實地觀測
4. 此ノ會ニ次ノ役員ヲ置キ任期ハ一ケ年トス
支部長一名、幹事若干名、評議員若干名、

支部會員 (◎は支部長 △は幹事 ●は評議員)

豐中中學校内 ◎井伊秀勇, ◎川端省治, △笹部榮一, △河合孝一, 阿部光雄,
生形元重, 川浪智一, 福井實信, 小川顯世, 五十川一郎,

校 外 ◎宮森作造, ◎小谷新太郎, ◎山田榮三郎, ◎波江貞夫, ◎木村頼二,
◎出羽助一, 津賀豐藏, 宮本貢夫

北 米 支 部

拜啓 貴會いよいよ御隆盛大賀此事に御座候。

陳者先頃御送り下され候天界見本は北米各地の日本人會に送付し、同好者に贈呈を依頼仕候も、未だ何等の反響を見ず候へ共、茲に只一人、佐瀬俊助氏を御紹介申し上げ候間、會員に加入下され度候。同氏はベルティヤール氏より僅かに一日遅れにて 1932 h Comet の獨立發見者にして、先頃太平洋沿岸天文協會より Donohoe Comet Medal を授與せられ候。云々

1933年1月8日

M. 長 田

岡 山 支 部 通 信

水 野 千 里

岡山支部通信は永く「天界」を賑はして居たが、去る昭和2年支部幹事宮原節氏が海外研究員として出張されてから振はなかつた。

「天界」を研究する爲め、大正10年以來久しく續けて居た「天界」研究会も昭和2年から中絶して居たが、昭和7年12月から復活され、毎月第二土曜日に、岡山支部で催されることになった。

昭和7年12月10日 昭和8年の天文學界

水 野 千 里

昭和8年1月14日 恒星寫眞光度測定

荒 木 健 兒

2月11日には宮原節氏が、ボイズの法則に就いて述べられる筈であつたが、來會者少數の爲め延期された、尙ほ當日には新刊天文書の陳列批評及び繪葉書が出品されることになつて居て、12月には岡山縣、1月には樺太地方、2月には北海道地方のものが興を添へた。繪葉書は毎月地方別に二、三百枚宛陳列される筈である。これは幹事が數十年に亘り蒐集したものである。

會 計 事 務 引 繼 に 際 し て

前會計八木敬一氏は昨年九月以來病臥中に就き、一時小生が代理して來ましたが、同氏の容態少々しからぬため、今度會長の指示により小生が引續き事務を執る事になりました。實は小生に取つては全く畑違ひの仕事で、及ばぬ處多々ある事と思ひます。何卒會員諸氏の倍舊の御援助を賜はらん事を祈りつゝ、此處に紙上を通じて御挨拶申します。

昭和八年三月

高 城 武 夫

高城武夫氏を推薦します。八木氏の病氣は誠に御氣の毒であります。會務上、止むを得ませんので、本會と縁故深き高城氏を御依頼することにしました。誠實勤勉の士であります。

會 長 山 本 一 清

會計監督 池 田 政 晴

本 年 度 の 總 會

昨年 of 總會の決議により、本年の總會は來る夏の頃に東京で開く
豫定であります。詳細は後報。

東 亞 天 文 協 會